

科目名	情報処理試験特別講座Ⅲ(秋向) 応用情報技術者					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	國房 篤子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科3年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ミニテスト(H30春～R01秋の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R01秋の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	R01秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	R01秋の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	R01秋の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	R01秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	R01秋の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	R01秋の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	H31春の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	H31春の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	H31春の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	H31春の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	H31春の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	H31春の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	H31春の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	H30秋の午後問題の間1,5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	H30秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	H30秋の午後問題の間4,7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	H30秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	25	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
26	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習		

	27	模擬試験の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	28	H30春の午後問題を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	29	H30春の午後問題を解く						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
	30	H30春の午後問題の解説						授業で解いた問題を理解し解けるまで復習
			※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(国家試験)	◎	◎				80%	
	模擬試験とミニテスト	◎	◎				20%	
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅲ(秋向) 基本情報技術者試験					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	新納 美佳、中西 伸二	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科3年					
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	基本情報技術者試験	過去問対策(R02年春)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	2	基本情報技術者試験	過去問対策(R02年春)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	3	基本情報技術者試験	過去問対策(R02年春)-3		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	4	基本情報技術者試験	過去問対策(R01年秋)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	5	基本情報技術者試験	過去問対策(R01年秋)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	6	基本情報技術者試験	過去問対策(R01年秋)-3		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	7	基本情報技術者試験	過去問対策(H31年春)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	8	基本情報技術者試験	過去問対策(H31年春)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	9	基本情報技術者試験	過去問対策(H31年春)-3		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	10	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec午後)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	11	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec午後)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	12	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec)-1 解説		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	13	基本情報技術者試験	模擬試験(Itec)-2 解説		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	14	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年秋)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	15	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年秋)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	16	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年秋)-3		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	17	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年春)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	18	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年春)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	19	基本情報技術者試験	過去問対策(H30年春)-3		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	20	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午前)-1		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	21	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午前)-2		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	22	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午後)-3		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	23	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC午後)-4		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	24	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC)-1 解説		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	25	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC)-2 解説		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	26	基本情報技術者試験	模擬試験(TAC)-3 解説		前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	

	27	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-4 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験は基本情報・本試験とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。						

科目名	情報処理試験特別講座Ⅲ(秋向) 安全支援確保士試験					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	山田 貴文	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科3年					
授業概要	情報処理安全確保支援士の過去問題を通して、エンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				攻撃手法についての知識を付ける
		○		○		攻撃実験を行うことで実際のセキュリティ感覚を身に付ける
	○	○				情報セキュリティの安全確保の知識を付ける
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	午後Ⅰ(R02年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	午後Ⅱ(R02年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	午後Ⅰ(R01年秋)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	午後Ⅱ(R01年秋)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	午後Ⅰ(H31年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	午後Ⅱ(H31年春)を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	25	午後Ⅰ(H30年秋)を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	26	午後Ⅰ(H30年秋)を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	

	27	午後 I (H30年秋)を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	28	午後 II (H30年秋)を解き、解説-1	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	29	午後 II (H30年秋)を解き、解説-2	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	30	午後 II (H30年秋)を解き、解説-3	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(国家試験)	◎	◎				80%
	模擬試験とミニテスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Webシステム構築 I						
科目名(英)	Web system construction I						
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	澤田 聡司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科3年						
授業概要	前期で学んだSpring Bootフレームワークを使用してWebアプリケーションを開発するとともに、実践的なチーム開発を体験する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				Eclipseを使用してSpringBootによるWebアプリケーションの開発ができる。	
		○				Spring Securityを使用したログイン認証機能を持つアプリケーションの開発ができる。	
		○				Gitを使用してチーム内でソースコードの共有ができる。	
		○				Backlogを使用して開発の課題管理ができる。	
テキスト・教材 参考図書	Spring Boot 2 プログラミング入門(秀和システム) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Spring Bootを使用したWebアプリケーション開発の復習				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	2	Spring Bootを使用したWebアプリケーション開発の復習				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	3	Spring Securityを使用したログイン認証				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	4	Spring Securityを使用したログイン認証				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	5	ログイン認証があるWebアプリケーション開発				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	6	ログイン認証があるWebアプリケーション開発				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	7	ログイン認証があるWebアプリケーション開発				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	8	ログイン認証があるWebアプリケーション開発				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	9 ～ 29	チーム開発				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	Backlogに登録された課題のうち、評価基準を満たした課題の数で評価する。 最終日に発表するWebアプリケーションのでき具合と発表内容で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎				100%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Webシステム構築Ⅱ						
科目名(英)	Web system construction Ⅱ						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	澤田 聡司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科3年						
授業概要	前期で学んだSpring Bootフレームワークを使用してWebアプリケーションを開発するとともに、実践的なチーム開発を体験する。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				Eclipseを使用してSpringBootによるWebアプリケーションの開発ができる。	
		○				Spring Securityを使用したログイン認証機能を持つアプリケーションの開発ができる。	
		○				Gitを使用してチーム内でソースコードの共有ができる。	
		○				Backlogを使用して開発の課題管理ができる。	
テキスト・教材 参考図書	Spring Boot 2 プログラミング入門(秀和システム) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 ～ 29	チーム開発				前期で学んだ内容を復習しておくこと。	
	30	発表				発表内容はPowerPointのテンプレートを配布するので、概ねその内容に従うこと。	
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	Backlogに登録された課題のうち、評価基準を満たした課題の数で評価する。 最終日に発表するWebアプリケーションのでき具合と発表内容で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎				90%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	アプリケーション構築 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	久岡 貴弘 ※4月1日時点での予定		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT企業を経営		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	Android Studio 上で、Kotlin と Realm を使って、Androidスマートフォン上で動くアプリケーションを作成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Android Studio の操作とKotlinを理解し、プログラムが作ることができる。	
	○					データベース Realm を理解し、データベースを使ったプログラムを作ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング第3版 ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	データベース Realm の使い方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	スケジューラアプリの画面レイアウト作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	スケジューラアプリの画面レイアウト作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	スケジューラアプリのデータベース連携の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	スケジューラアプリのデータベース連携の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	スケジューラアプリのデータベース連携の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	スケジューラアプリのデータベース登録の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	スケジューラアプリのデータベース登録の作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	スケジューラアプリのデータベース登録の更新			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	スケジューラアプリのデータベース登録の更新			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	データベースを使った簡単なアプリケーションの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	データベースを使った簡単なアプリケーションの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	データベースを使った簡単なアプリケーションの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	データベースを使った簡単なアプリケーションの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	平常点(課題)		◎		◎		30%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	アプリケーション構築Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	久岡 貴弘 ※4月1日時点での予定		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT企業を経営		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	プログラム言語 Python を使って、簡単なプログラムを作成できるようになる。 ※担当者は、4月1日時点での予定						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Python の基本文法を理解し、簡単なプログラムを作ることができる。	
	○					Python で、簡単なアプリケーションを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	授業資料で対応 ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Pythonの基本的な使い方			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	2	入出力と演算			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	3	分岐			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	4	分岐			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	5	繰り返し(for), エラー処理 (try-except)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	6	繰り返し(while)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	7	定数, 無限ループ			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	8	繰り返しのまとめ			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	9	リスト(一次元)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	10	リスト(二次元)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	11	Webページからデータ取得(APIを使ったスクレイピング)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	12	Webページからデータ取得(APIを使ったスクレイピング)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	13	Webページからデータ取得(APIを使わないスクレイピング)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	14	Webページからデータ取得(APIを使わないスクレイピング)			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	15	まとめ			授業中に終わらなかった課題を完成させる		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	平常点(課題)		◎		◎		30%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	久岡 貴弘		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT企業を経営		
対象学科・学年	システムエンジニア科3年						
授業概要	就職に必要な一般教養を習得する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	◎		○		就職に必要な一般教養を習得する。	
	◎	◎				学内試験をクリアする。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	漢字の読み・日本地理・式と計算			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	2	漢字の書き取り・日本地理・式と計算			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	3	同音異義語・世界地理・速さの基礎			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	4	同音異義語・日本史・**算			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	5	語句の意味・日本史・**算			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	6	同義語対義語・世界史・**算			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	7	四字熟語・政治経済・確率			小テストに備えて復習をしっかりと行うこと。		
	8	正試験			授業で習ったことを復習し習得する。		
		※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	ミニテスト				◎		20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	卒業研究 I						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	3年間の専門教育の集大成として、原則チーム製作でアプリケーション開発の企画・設計・製造・テストを行い、最後に成果物に関するプレゼンテーションを行う。製作でなく研究でもよい。この科目では主に設計を中心に行う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				チームで共同して製作・研究を行うことができる。	
	○	○				成果をプレゼンテーションできる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グループ製作のチーム・テーマ決め			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	5	概要説明書作成			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	11	概要説明発表準備			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	12	概要説明発表			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	13	設計			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	28	製作・研究			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	37	中間発表準備			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
	38	中間発表			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う		
		※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定					
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	中間発表	○	○		○		70%
	提出書類	○			○		30%
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						

科目名	卒業研究Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	中西 伸二				
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務				
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年								
授業概要	3年間の専門教育の集大成として、原則チーム製作でアプリケーション開発の企画・設計・製造・テストを行い、最後に成果物に関するプレゼンテーションを行う。製作でなく研究でもよい。 この科目では主に設計を中心に行う。								
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				チームで共同して製作・研究を行うことができる。			
	○	○				成果をプレゼンテーションできる。			
	○	○				成果を必要な書類にまとめて納品できる。			
テキスト・教材 参考図書	なし								
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示				
	1	製作・研究			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
	28	テスト・ドキュメント作成			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
	35	発表準備			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
		:			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
	38	最終発表			チームでの役割分担を理解し授業外でも共有を行う				
	※学習する分野の順番は、4月1日時点での予定								
評価方法				言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	最終発表			○	○		○		60%
	納品物			○	○		○		40%
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。								